

笑顔でのんびり楽しく

元蕨署長 義村さん

川口市本町に位置する古刹(じゆうじ)で開かれている仏像彫刻教室の生徒たちによる第4回教室展が5月末の3日間、同市立アートギャラリー・アトリアで開催された。連日、生徒や家族らでにぎわいを見せた。教室を主宰する義村幸さん(82)は元蕨警察署長だ。現役時代からひそかな趣味として仏像彫刻を学び始め、12年前に錫杖寺のお堂の一角で教室を始めた。今後とも「のんびり楽しくやりたい」と柔和な笑みを浮かべる。

(岸鉄夫)

◆初の合作

義村さんは今回、額入りの「雲中供養菩薩像」2体を出品。衣は共に青、背景の空は一つは黄土色、もう一つは水色に。着色は、川口で育った日本画家で娘の青山京古さん(54)。父と娘、初の合作だ。

教室発足から3年、こに教室展を開き、今回で4回目を迎えた。現在の生徒は28人で数点ずつ約100体を出品。習作の手や仏足など小品も含めると、全部で783点が会場に並んだ。

川口・錫杖寺 仏像彫刻教室の作品展



仏像教室展で教え子たちと義村幸さん(左から4人目) 5月31日、川口市立アートギャラリー・アトリア

ほかに、関東地方の教室主宰者や講師ら名人級の5人の5点も展示された。

義村さんは鹿児島県出身。大學生時代は桜島を望む海岸で、空手の修業に励んだことも。埼玉

玉眞警で警察官人生を送り、約20年前の定年の際は蕨署長を担った。県警広報課の次席時代は、県警記者クラブの記者たちとともに難事件が起きた現場にいたという。

今後について、「次の教室展は3年後に節目の5回。それまではほとんど、のんびり楽しんでやりたい」と義村さん。独特の温和な笑顔は昔と変わらない。

◆大切な時間

発足の年から通う最古参の生徒、川口市の渡辺成子さん(79)は最近の自信作「観音菩薩坐像」を出品。「お寺の本堂の落ち着いた雰囲気が好きで、錫杖寺の教室を探し当てて入門した」という。「自分で彫った仏像には自分の思いが宿っている。誰ともしゃべらないで、彫ることだけに集中できる。そういう時間が大切だと思う。来年、私は大台の80歳。義村さんに習って良かった」と実感を込める。

さいたま市の工務店で現場監督を長く務める秋本章さん(64)は「仏像彫刻は腕の力より頭を使う。細かい手作業に集中するのが好き。気持ちが落ち着くし、日頃の仕事のストレスを解消できるし、あとは熟睡できる」と語り、「仕事で痛めつけられることもある。仏像をやることで、痛みを乗り越える力が湧いてくる。いいものに巡り合ってた」と笑顔を見せた。